2013-14年度　米山梅吉記念館探訪旅行報告

10月6日(日)～7日(月)、米山奨学生、世話クラブカウンセラー、地区米山委員で米山梅吉記念館を訪ねながら、伊豆、富士山周辺の自然と文化に触れる『米山梅吉記念館探訪旅行』が実施されました。

　参加者は、奨学生23名中20名（3名の不参加の理由は全て把握、また内２名は継続奨学生で昨年参加）、 カウンセラー23名中13名（費用はカウンセラー負担にもかかわらず半数以上が参加　内仕事の都合上 自車にて参加2名）、地区米山委員5名という高い参加率でした。

　この探訪旅行は、毎年恒例の行事ではありますが、意味深いプログラムとなっています。米山記念奨学会より地区に対して奨学生数に応じた「奨学生活動費補助金」がありますが、主なものはこの旅行となっています。他に新たな試みも検討しましたが この旅行は有意義と判断し今年も実施いたしました。目的としましては、　①米山記念奨学事業の成り立ちを学ぶこと　②米山記念奨学生としての自覚をより強く持ってもらうこと　③カウンセラー及び同期奨学生との懇親を通じ今後の交流を目指すこと　です。

1日目は、米山梅吉記念館、浄蓮の滝の見学後、土肥温泉桂川シーサイドホテルに入りました。

米山梅吉記念館では、米山記念奨学事業の冠となっている「米山梅吉翁」のその人物や日本のロータリアンの思い、そして米山記念奨学事業が現在に至る過程を学び、その後、記念館近くにある米山梅吉翁の墓に行き、その功績を称え感謝の気持ちでお参りしました。ホテル到着後は即研修会を行い、①ロータリアンの期待と地区内の声　②卓話について　③世話クラブまたは地区ロータリアンとの長期に渡る交流　④学友会参加奨励　など、時には強い言葉で奨学生に伝えました。

2日目は、富士山五合目まで行き、その後忍野八海の散策、富士山は今年から世界文化遺産に正式に登録されましたが、初めて訪れる学生が多くとても楽しんだ様子でした。

　今回の探訪旅行で、目的を果たせただろうか？　地区内ロータリアンの想いを感じてもらえただろうか？　奨学生達は何かを感じてくれただろうか？　との思いはありますが、その答えは数年先にわかるのではないかとも思います。奨学生達が今後の奨学生活がより有意義になることを期待しています。

お忙しい中参加していただきましたカウンセラーの皆様には、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

地区米山奨学委員会　奨学生・学友担当　平野　一隆